

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング 情報ブック2015』にてご確認ください。

- ・ p. 4～5→学年暦
- ・ p. 10～15→通信教育部カレンダー
- ・ p. 42～44→社会福祉士 演習・実習科目関連締切等
- ・ p. 45～48→精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等

● 6/11～8/5 について、追加・変更はありません。

夏期スクーリング受講にあたっての留意点

(1) 羽織るものをご持参ください。

教室の冷房は高めに設定しますが、体感温度には個人差があるため、全ての方に快適な室温とすることは困難です。また、エアコンの吹き出し口付近の座席はかなり冷えることがあります。そのため、ご自身の衣類等での調節をお願いします。

(2) 健康保険証をご持参ください。

暑さ等により体調を崩される方が増える季節です。持参されない場合、医療機関にかかる際に全額負担となってしまいます。

心理学を学ぶこと・あれこれ

教員 MESSAGE

教授 木村 進

今年も新入生を迎えて、新しい年度がスタートしました。最近、心理学を希望する人が減少傾向にあるという懸念はありますが、新入生を迎えるということは、毎年のことながら、私たちにとってもワクワクする出来事です。この原稿依頼があったことで、自分のこれまでの心理学との関わり合いを振り返ってみながら、「心理学を学ぶ」ということについて、あれこれ考えてみたいと思います。しばし、おつき合ください。

1. 私の心理学事始

私は、小学校の先生になりたくて教育学部に入りました。いろいろ学んでいるうちに、心理学に興味を覚え、方向転換しました。どこが面白かったのかと思い出してみると、最初は、人というものを考える時に、答えが一つではないということだったような気がします。いろいろな見方ができるということが魅力的でした。心理学を学ぶということは、人というものをいろいろな角度から考えられるようになるということであり、そうになると、なかなか断定ができなくなります。だから「人って面白い」と私は思っています。その後、大学院進学時から、発達心理学に焦点を絞ったわけですが、それは「育つ（育てる）存在」としての子どもの捉え方に魅かれたからでした。

以来、何十年と、発達心理学とつき合ってきましたが、私の基礎にあるのは「育つ・育てる」ということですから、子どもの発達について研究するとともに、育児や保育・教育の分野にも関わってきています。

2. 心理学を学ぶということ (PART I)

心理学とは、心を研究する学問だと思われがちで、それも間違いだというわけではないのですが、心そのものは目に見えないので、心理学が直接扱うのは、心が目に見える形になった、広い意味での行動なのです。したがって、心理学は「行動科学」の一分野であり、単純に言えば、どのような条件でどのような行動が起こるかということを中心にしようとするものです。行動の生起を、その人がもっている内的条件とその人を取り巻く環境的条件から解明しようというのが心理学です。

別の角度から考えてみましょう。人を知るということは、自分を知ることであり、自分を知るとは人を知ることの土台になると私は考えています。したがって、心理学を理解する時に、自分の経験が役に立つはずで、心理学の理論や知識をそれ自体として理解するだけでなく、自分の経験や周囲の人々の行動と関連づけて覚えようとするのが大切です。心理学を学ぶということは、自分の経験を理論化するという側面ももっているとされます。そういう意味では、人生経験豊かな年長者の方が心理学を学ぶのに向いているといえるかもしれません。

3. 心理学を学ぶということ (PART II)

通信教育における学びは、スクーリングは別として、テキスト等の文献を読み、レポートとしてまとめるという作業が中心になります。一般にテキストというものは、基礎的な事柄について分かりやすく書いてありますので、読んでも分からないということはあまりないと思われます。ただしこれは、1回読んで理解できるという意味ではありません。1回で分からなければ2回、2回で分からなければ3回というように読むということです。また、レポートを書くために読むのではなく、読んで理解したことを

基にしてレポートを作成するのです。つまり、心理学を学ぶということはレポート課題と関係のないところまで含めて基本的なことを理解することを意味しています。同じことですが、テキスト以外の文献を読むということも大切です。

とはいうものの、評価の対象はレポートですから、レポートがしっかりかけなければ努力も水の泡です。しかし、レポートについては、相当親切的な「解説」がついていますので、解説をしっかり理解してから作成にとりかかれば、「不可」ということはないはずです。

4. 心理学を学ぶということ (PART III)

新入生の皆さんの進学の間機は様々だろうと思われませんが、心理学に限らず、「学んでよかった」という達成感を得るためには、どれだけ主体的に学習に取り組んだかということが重要な意味をもっているのではないかと思います。

主体的に取り組むということは、テキストを読んだり、レポートを作成することはもちろんですが、それだけでなく、自分なりのテーマを設定して取り組むということをお勧めします。つまり、自分の学びの焦点を創るということです。大きく言えば、心理学には種々の分野がありますが、自分がとくに興味をもつ分野はどれかということですし、さらには、その分野の中の一つのトピックス（テーマ）を選んで、主体的に取り組むということです。それについては、人に教えられるくらい勉強したという手応えが達成感につながるのではないかと思います。

5. まとめに代えて

心理学は科学ですから、人間（の行動）を客観的に理解するための研究

法も学ばなければなりません。そういうことを含めて、第一には、科学的・客観的とはどういうことかについて理解してください。科学的・客観的というのは、獲得した理論や知識をどのように活用するかということの意味しています。したがって、それを理解することは、単に心理学を学んだということを超えて、いろいろな部分で役立つはずです。

心理学は人間を科学する学問です。その土台には、それぞれの人がもつ人間観、人生観、価値観があります。学びが、自分を含めて人の幸福につながるというのが理想ではないでしょうか。そのためには、自分が人間というものをどのように捉え、どのように接しているかということ意識しながら心理学を学ぶことが大切だと思っています。そして、何よりも心理学を学んだことが、自分を見直し、自分を温かく理解することにつながることを期待しています。